



瑠璃色の女の夢

hakungu fullnerson

adult  
only!

こちら第六師団！  
オリオンは中枢部を破壊され  
システムダウン！  
これ以上の戦闘は不可能！

ゴッ  
ゴッ  
ゴッ  
このままでは  
全滅してしまいます！

ぼっ  
ぼらりすサマツ！

でっ

でもっ

皆を見捨てる  
わけには……

往生際の悪い子ね  
そろそろ降参したら  
どう？

ひっ……  
卑怯者っ！  
誰が降参なんて

あらそう？  
じゃあたっぷりと  
思い知るがいいわ

皇魔族の力を――

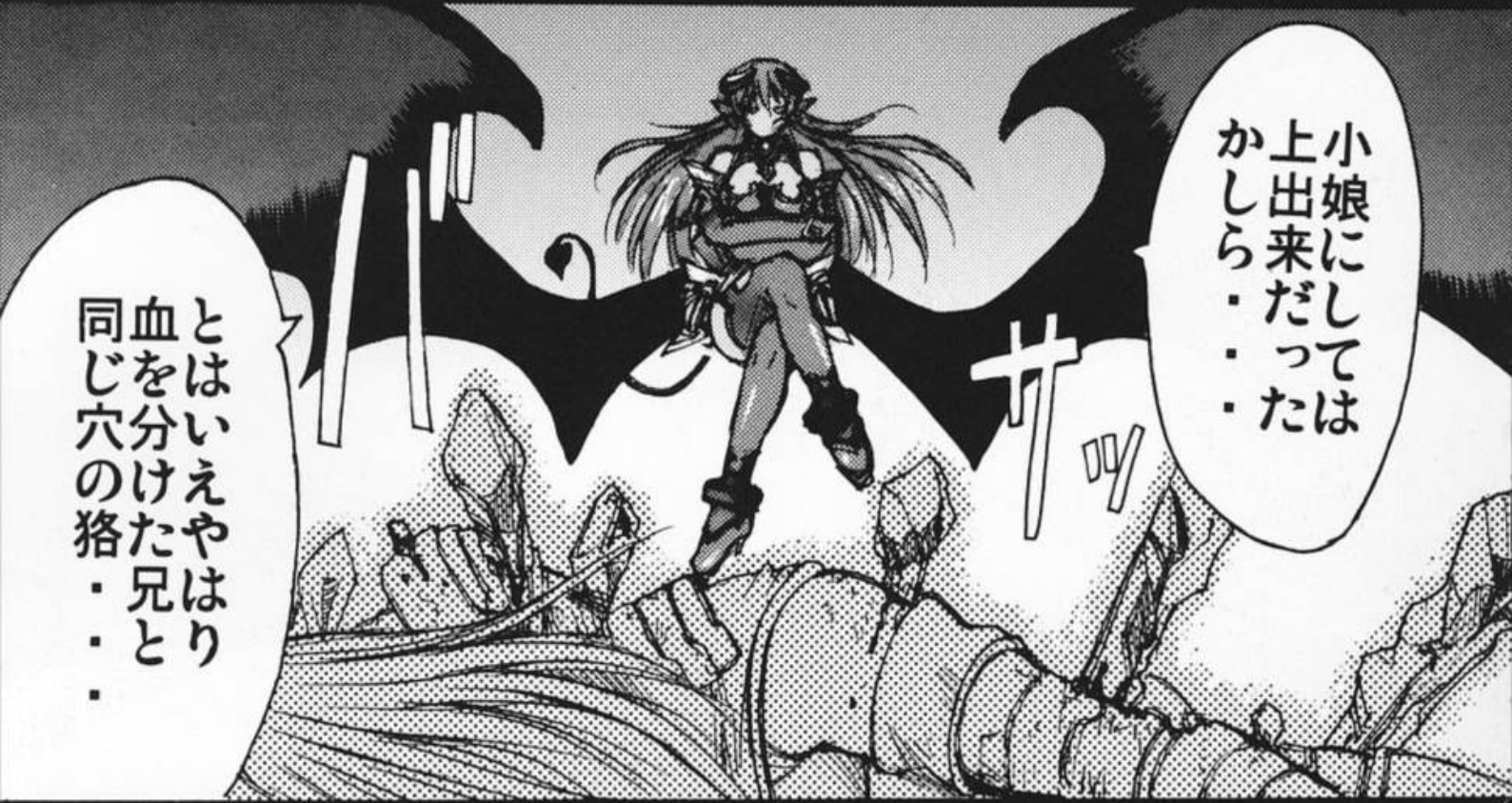
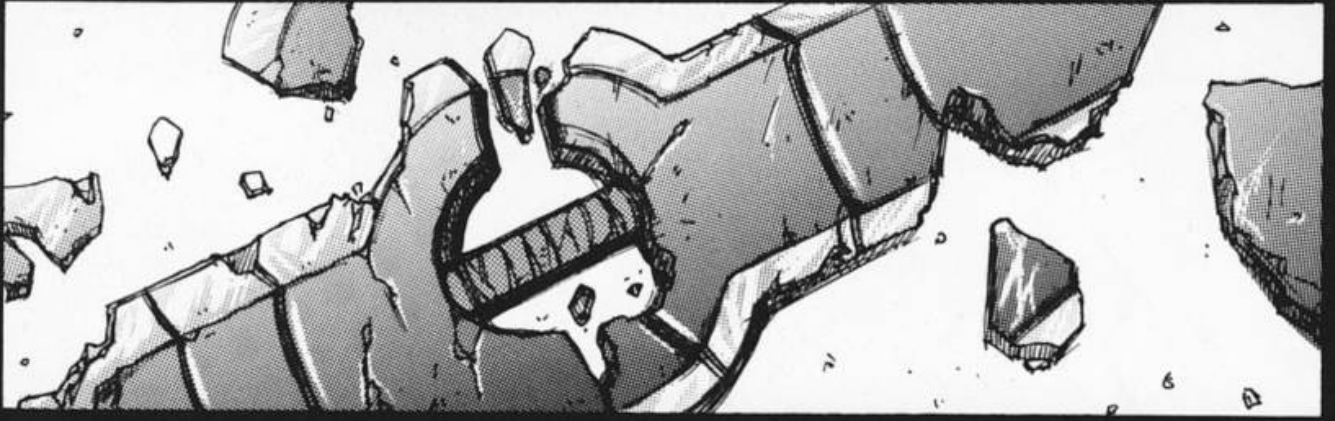
氷月  
刃禍  
！





くっ...  
これじゃ...  
防げないっ!!





小娘にだしては  
上出来だっは  
かしら・  
・  
・

とはいえやはり  
血を分けた兄と  
同じ穴の貉・  
・  
・



安心なきいは  
まだ殺したりは  
しないわ

お楽しみは  
これから♪

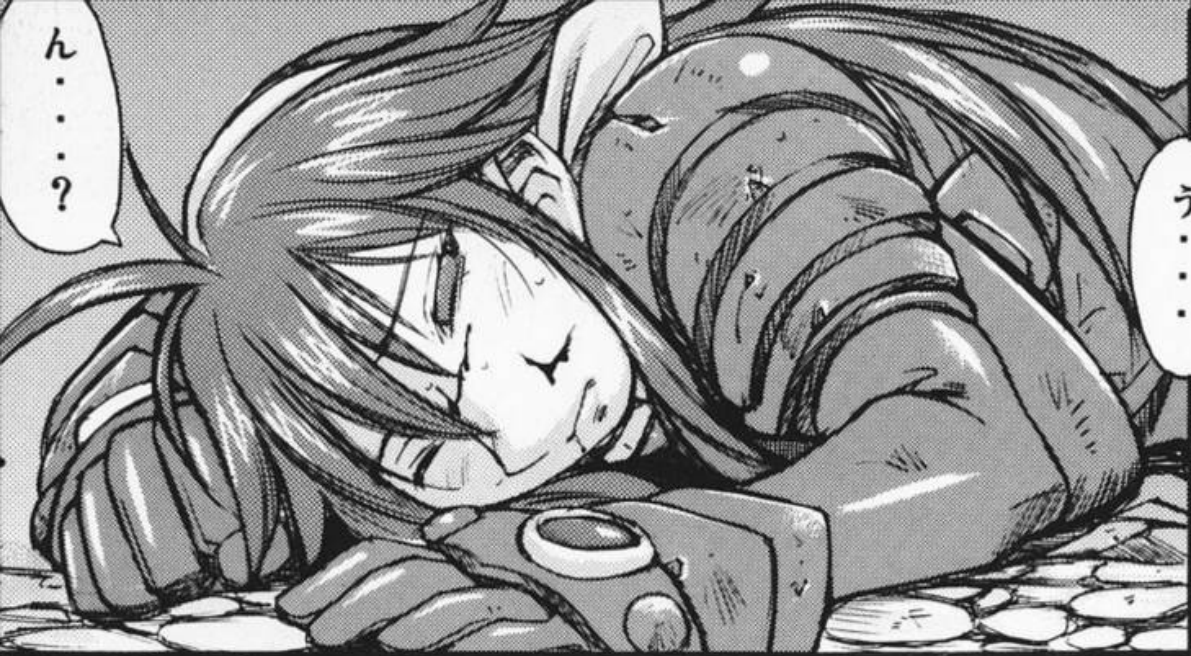
瑠璃色の女の夢





b y 黒龍眼





ん……？

う……



やっと目を  
覚ましたようね

鎧羅族の  
お嬢さんー



お前は  
……！

よくも  
鎧羅の軍隊を  
畏に……！

うっ？！

よしなさい  
抵抗したところで  
あなたに勝ち目は  
ないわ

ああっ！

しる

ゆるゆる

鎧羅が中央大陸に兵士を  
派遣することは前もって  
内通者からの情報は  
得ていたものなのよ！

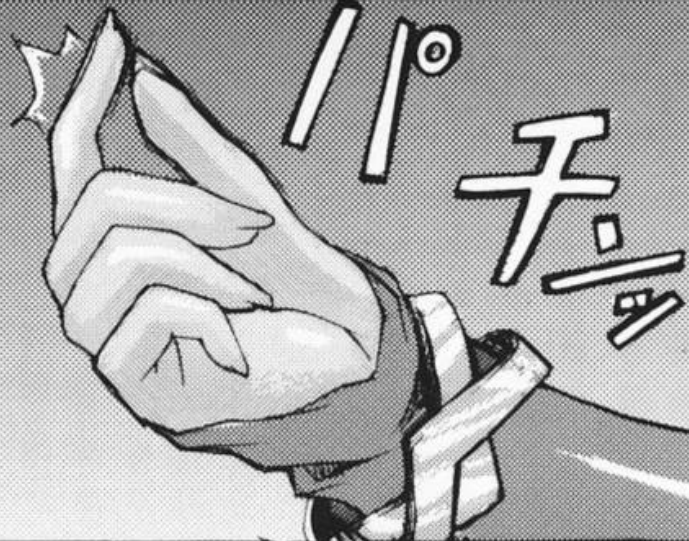
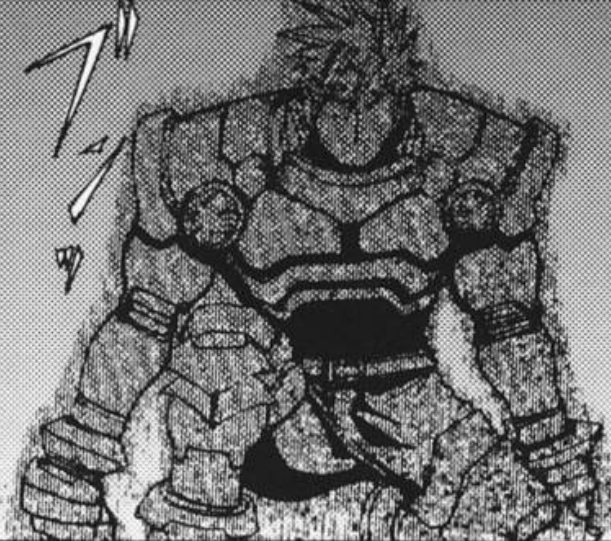
しかしまだまだ  
兵を動かすには  
経験不足だわ

行方不明の兄と  
違ってあなたは  
優しすぎる……

兄さん……？

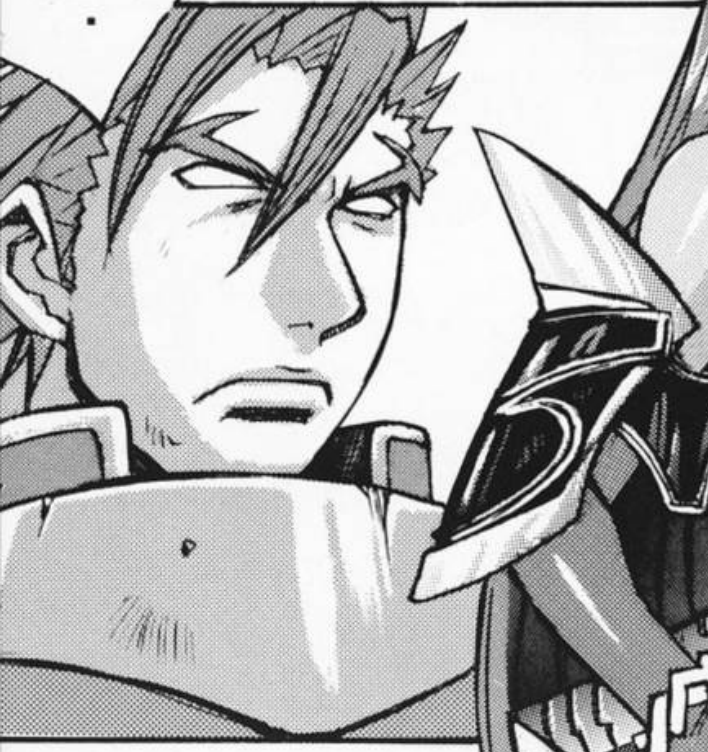
兄さんは  
どこに！？

まさかオリオンまで  
復活させていたとはね



兄さん・・・  
シリウス兄さん！

どきどき・・・  
どきどき・・・  
どきどき・・・



あなたのお兄さんなら  
ここに・・・

呼びかけても無駄よ  
残念だけど  
今のこの男には  
私の声しか聞こえないの

皇帝陛下の秘密を探りに  
単身中央大陸に潜伏  
しようなんて  
無謀なことを・・・

そんな・・・

あなたたちがもう少し  
早く侵攻してくれば  
彼も助かったけど  
かもしれないけど

さあ・・・  
私の前であなたの愛する  
妹を可愛がってあげなさい

えっ・・・

兄さん・・・  
私の言うことが  
わからないの  
・・・？

いつ!?

にっ  
兄さん  
なにを  
……  
……  
??

ッ  
ッ  
ッ

ひっ……  
いやああああっ!!!





ふふふ・・・  
見かけによらず  
小ぶりでも引き締まった  
オツパイなのね

くっ・・・

どうして・・・  
こんな恥ずかしい  
真似を・・・



まだ男を知らない  
無垢な体を実の兄に  
弄られるのよ

そんな・・・  
私・・・いやだよ  
こんなの・・・

あんっ・・・

ムニェ





どうしたの？  
股の方から  
いやらしいお汁が  
出てるじゃないの

ちゅわ  
まろっ

ちっ・・・違うのっ  
兄さんが・・・  
つよく・・・ひっぱる  
からあ・・・

ちゅわ  
まろっ



えっ？

うそっ・・・

みちっ

みちっ

だめええっ！

びしょ



ああっ……  
見ないでっ……

ふふふ……  
お兄さんに見られて  
少し多めに濡れちゃったの  
かしら？

これからもっと  
たっぷりとお汁を  
溢れさせてあげるの

丁寧じっくりと  
処女マンコを  
ほぐしておあげなさい



はちやう

はちやう

れろ

れろ

れろ

あいつ...  
あいつ...!!

だそにあ  
めんいさ  
なとあ  
のおこん  
ついっ  
っち  
っち  
っ!  
や

はちやう

はちやう

はちやう

キッ

ヒッ?!



ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ

んぶっ

グイッ

ちゅ

ちゅ

おごっ

ヌッ

おえっ

ゴッ

ゴッ

んぐうっ?!

すごい  
実の妹なのに容赦なく  
チンポ突っ込んで...

おえっ

んぐっ

ズッ

うぶおっ

ズッ

んぐっ

頭に血が上るだけじゃなくて  
胃液が鼻に入ったりしたら  
苦しいわよ



ぶぐおっ!!

ゴッゴッ  
ドクドク

うっ...  
うおっ...!!



ぶ...

はっ!!

ゴッゴッ  
ドクドク

うっ...

はっ!!

はっ!!

うっ...  
うおっ...!!

今度はあなたのチンポで  
妹の処女を奪ってあげなさい

大丈夫よ  
この娘はまだ  
慣れていないだけ  
だから

はまっ

はまっ

ううっ

う……

いやっ……  
兄さん……

???



あ……うあああ  
いつ……  
いたいよあつ

いやなのつ  
あつ!

ホッ……

ホッ……

あ……

フ

フ

フ

これ以上  
はつ……

フ

さつ……  
裂けちやう……

フ

フ

フ



ぐんぐん

ごきり

ぐんぐん



兄さん……

それ以上は……  
入らないっ……

あいつ?!

そこはあつ……



はあはあ  
すっごおい……

血を分けた兄が  
一心不乱に妹の処女マンコに  
チンポを出し入れして……

見てるだけで  
興奮してくるっ……

いあっ

んん

ズク

ズク

ズク

うっ



ああっ

んあっ

にいさん  
……

ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ

いあっ

ああっ

このままいけば  
妹の方もすんなりと  
思いのままに……

ふふふ……

ズッ

フツツと  
サツサと  
皇陛下に  
お見せす  
よお見せす  
いものば

これはこれ  
魔将閣下  
捕らえた男  
お戯れです  
か？

ん？

力を以って  
ねじ伏せるのではなく  
最高の恥辱を与えて  
飼い慣らす……

これだから野蛮な男は  
嫌になるわ……

せっかくの客人を  
すぐに陛下に引き渡す  
のは面白くないでしょ？

そうか

まあよからう  
だが・・・

?

チヤツ...

斬

ひっ・・・!!  
何を・・・?!

そんなもてなしで  
客人は満足しているのか?

中途半端なもてなしで  
客人の機嫌を損ねては  
陛下に申し訳が立たぬ  
であろう？

なっ……  
何……？

ムニョ

ボーンマスター!!

フヒョヒョ……

冥府に彷徨いし  
戦士の魂よ……  
我が名において  
今ここに召喚せり!



この者達は  
先の戦でお前に殺された  
鎧羅族の兵士の屍・・・

鎧羅の長ともども  
この者たちもお前の手で  
客としてもてなして  
やっではどうだ？

ひっ・・・  
そんな・・・

屍たちよ！  
皇魔族随一の美女が  
うぬらを愉しませて  
くれようぞ！

クゥ  
クゥ



くっ・・・  
そんな手で・・・  
私の胸に・・・

あっ・・・

やめ・・・ろ









ひ...

うわあー!

くあああ...!!  
そは...  
甜めちや...

うわあ

うわあ

うわあ

ああ

どうした？  
宴は賑やかな方が  
よいだろう？

あぁっ

こんなの……

ならば  
これで……

いやあぁっ

この俺様のもてなしが  
気に入らぬとでも？

カッ

はぁっ  
く



ハッハッハッハッ!  
まだ半分も入って  
おらぬぞ!

このまま奥まで  
ねじ込んだら  
どうなるかな!?

おこ



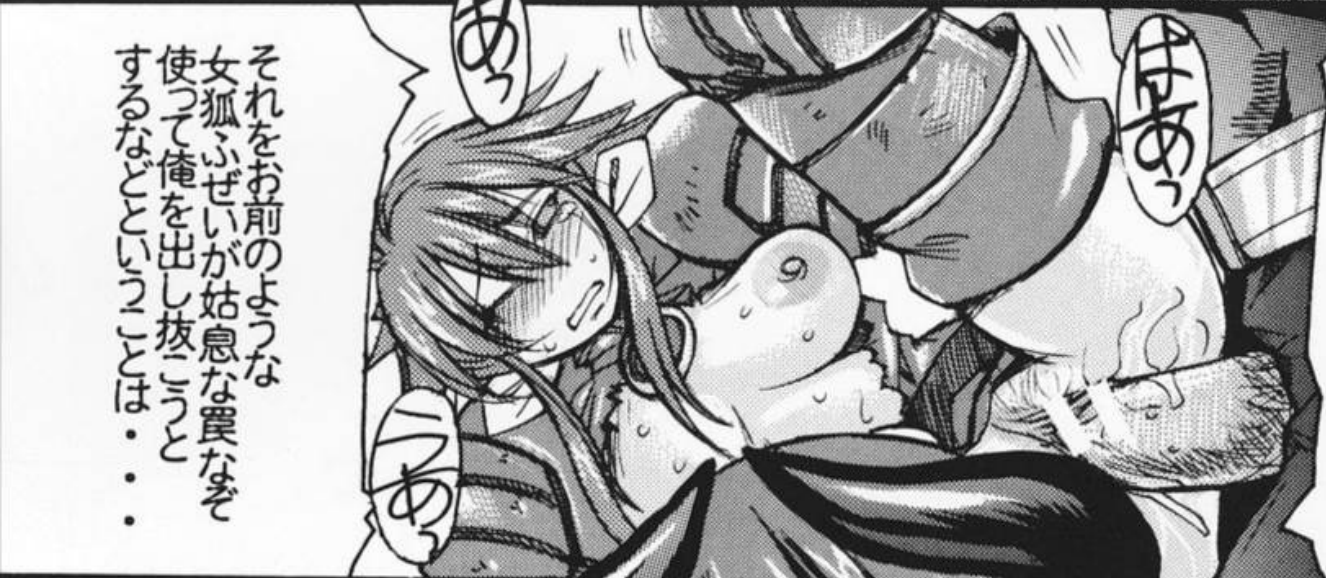
とほけたことを  
ぬかす奴め

# ズブツ

わざわざ四天王が  
こんな真似を・・・？



ど・・・  
どうして・・・



それをお前のような  
女狐いせいが姑息な異なぞ  
使つて俺を出し抜こうと  
するなごといつことは・・・

もともと「ノイツ」らは  
俺が仕留めよと  
陛下から仰せうかつたのだ



絶対に許されぬ  
ことなのだッ!!

# おウツ

# おウツ

それをお前自身の体に  
直接教えてくれるわ!

鎧羅の小娘ともども  
思い知るがよい！



ひい  
あぁ



...?



あ...  
あそこが...  
あついよあつ...

あ...  
ズッ  
ズッ  
ズッ



がぁ

ガッ  
ガッ  
ガッ

んぐうう!

はぁ

あ

ゴッ

ゴッ

ふぐう

おえ

ゴッ

ひゅっ

あっっ

こっ……こんなあつ  
太すぎて……  
裂けそうなのにつ

あんっ

んんん……

オマンコの中に  
じんじん熱いのが  
暴れまわるのあつ……

陸の奥まで  
えぐられてるっつ!!



ズッ

ズッ

はあひいっ...  
チンポあつ  
チンポくるっつう

はひっ  
大強ん

あきこっ...

チンポ

くあっ...

チンポ





ああああっ・・・  
腔内なかにいっぱいっ  
射精でてるっっっ!!





んはあつ!

ヌ

ホ

フン

所詮は女  
他愛もない奴らよ

じじじじ...

はあはあつ...  
あつい精子いっぱい





この小娘……  
鎧羅の男……  
前にどこかで……

何か……  
頭の中で……



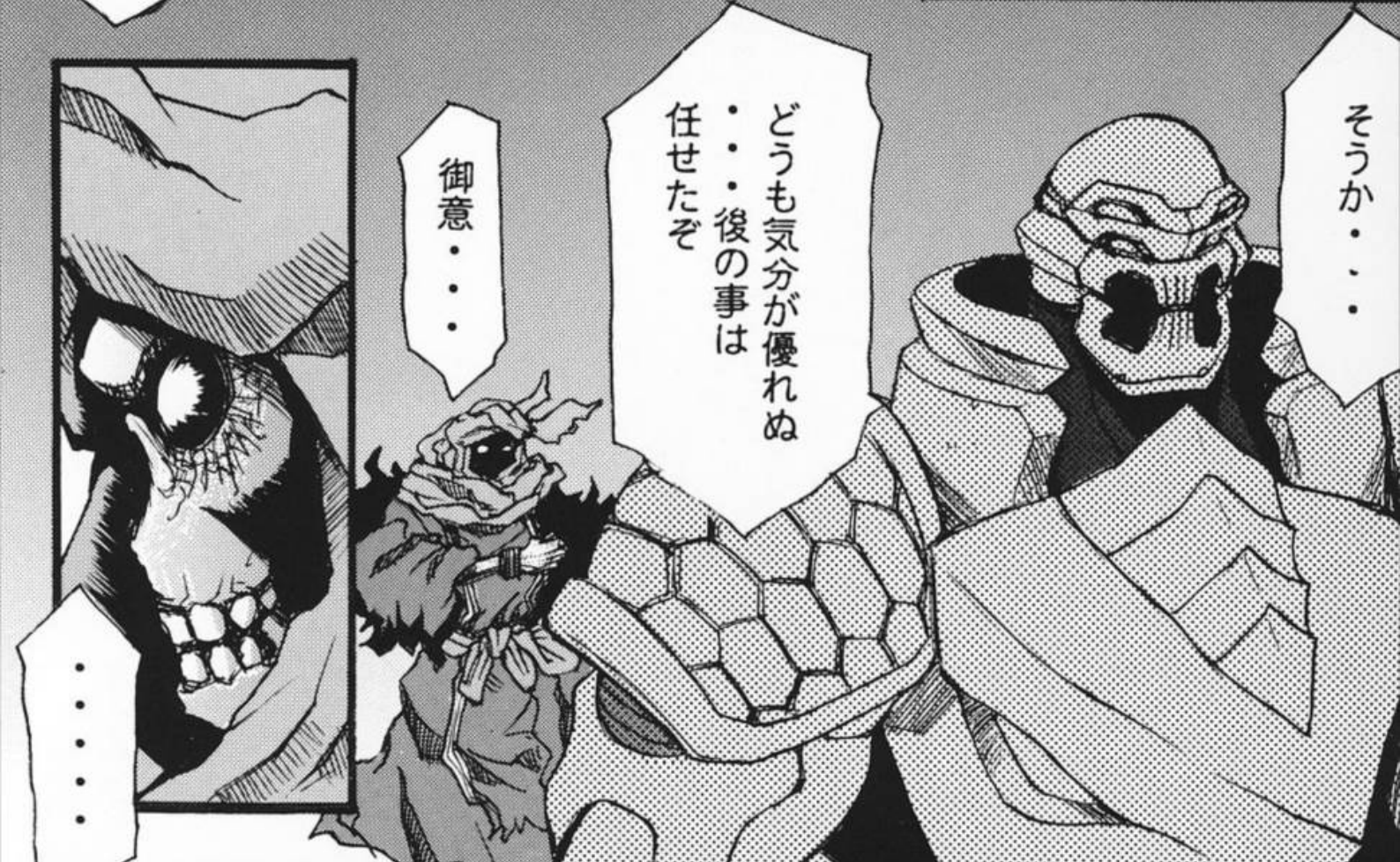
うっ……？

なんだ……？  
この感覚は……



ご心配なさらずに  
蛇王閣下

それはきつと  
戦疲れで  
ございましょう



そうか……

どうも気分が優れぬ  
……後の事は  
任せたぞ

御意……



……

・・・蛇王の奴め  
鎧羅の小娘と男の顔をみて  
何か思い出しそうに  
なったか・・・

あつ

はあつ

あつ

ああつ

まあよい・・・  
どのみち  
記憶が戻ったところで  
今更何も出来まい・・・

さて・・・  
この小娘には魔將軍ともども  
みっちり調教して陛下に  
奉仕してもらおうかのう  
フヒヨヒヨヒヨ・・・



## あとがき

ふう・・・

まさかあとがきを書く時間が無くなりそうになるまで作業が手間取るとは予想もしてませんでしたよ。

だから今現在書こうとしていたことがうまく頭の中から出てきませんよ。

というわけで今回は神羅の本だったわけですがいかがでしたでしょうか。

この本が無事印刷されていければおそらく開いた人の印象は「黒ッ！」という感じなんじゃないでしょうか。

いやもう力の限りトーン貼ったさ。久々に。

賢明なる読者諸氏はすでにお気づきかと思いますが過去に同じような本をいちど見てますね？

そうです。ずいぶん前に出したマーニャ車で真っ黒な車を見たと思います。

もうあれから結構経ちますが、暇元過ぎれば何とやらでちょっと頑張って貼ってみようかなと思ったからさあ大変。

よもやこれほどまでにトーンの処理する枚数が増えるとは・・・

当初まったく予想していなかったことなんです。が冊に色のあるアスタロットはともかく、

ポラリスの鎧も意外にトーンを食う色でして、気がつくやうに殆どの物を数種類の階調に分けなければ

何が何色やら判らなくなる有様になってしまいました。

それに加えてデザインなどは一教絵しか参考出来るオフィシャル資料がない上、ネット上で探せる他の絵描きさんの

絵も限られたものしかなく、描き始めた当初現物を所有していなかったもので結局のところ

公式HPの絵を全て印刷して紙に起こしなおし、再構築、ということになりました。

まあそんなこんなですから相当立体的に軽しかったりなんじゃこりゃ？というようなお見苦しいところも

あるかと思いますが、ご容赦いただきたい。て言うか謝罪してください(泣)

今回は当初アスタロットオンリーで行こうかなと思ってたんですが自分の中ではライバルのシオンがいまいち号線に

融れるキャラではなかった上、同じくらいお気に入りのポラリスをどうにか絡められないものが、

そして相手もなんかよくわからない適当なサオ師よりも同じ世界から・・・

なんてことをいろいろ考えたら二ーズホッグとボーンマスターが出てきたり、なんかオリオンまで描く羽目に・・・

まあおおよそ自分の詰め込みたい要素は7割入られたんでそれなりに読み癒えはあると思います。

そう思いたいです・・・

描いていると愛着の湧く物で、二ーズホッグは結構お気に入りです。

声は大塚明夫あたりでどうでしょう。ちなみにポラリスは桑島法子、アスタロットは伊藤静あたりでどうですか。

今の子供に神羅がどの程度浸透しているか知りませんが、自分の子供のころはビックリマン真っ只中でしたからねえ。

まあ自分は結構ヒネてたというか競合商品も多かった時代でしたから、あっぱれ大將軍、ネクロスの要塞、

秘伝忍法帳、ガムラツイストといろいろと広く浅く買っていた気がします。

他にもSDガンダム黎明期直撃ですからガシャポンやらカードダス、末期になってはいるものの

まだまだ現役のキンケシ、果てはコスモスをはじめとするとさくさにまぎれてどこのメーカーかわからない

消しゴム人形やら掴まされてそれで遊んでいたものでした。

自分の場合コレクション性云々というよりはむしろ何が出るか判らないことへのドキドキを楽しみにしていたというか

駄菓子屋という子供の遊技場のギャンブルの一つとしてそれを買っていた気がします。

今の子供はどこで神羅のカードを買っているのか判りませんが、大型量販店などが主流になってきた現在

個人経営の駄菓子屋やおもちゃ屋が軒並み店を開める現状ですから自分のような体験は

もはや過去の遺物なのかもしれませんね。

さて、恒例の近況報告を。  
毎回毎回ここで単行本単行本と急仏のように翻えた甲斐があったのか  
おかげさまで11月に初単行本「推定姦女」が出せました。  
応援していただいております読者様方にはこの場を借りて改めて御礼申し上げます。  
とはいえ今回の単行本は自分の中ではもうずいぶん前に描いたものが殆どでして、  
あれを自分の全てだと思われるのは正直本意ではありません。  
願わくはこれが次につながるような本であって欲しいと思うのですが、反省する点多々あり  
また一つ新しい課題が出来たという感じです。  
すてにお買い上げになられた方もいらっしゃるかと思いますが、  
まだの方はぜひどうぞ書店にてお求めください。

次は側の本にしようかなあ・・・などとまたあてにもならない展望をふちまけますが  
今回の本が必費以上に大変なところに入りすぎてしまっているので  
もう少しおきらくな本作りをしなければと思いました。  
あとは今回の協合デジタル仕上げの方がよかったのかなあ・・・そろそろ真剣にデジタル作業のノウハウを  
蓄積せねばならんかと切実に感じました。  
問題は予算とタイミング・・・難しいところです。

今のところ新しいもので大ハマリというキャラがあんまりないんで、  
今回の本が好評ならまたアスタロットの本作りたいですね。  
このところふたなりものご無沙汰なんて機を見てまた何か描きたいです。  
お楽しみに。

また今年もあわただしい年末となりまして、一年の経つのはつくづく早いものだと日々思います。  
今年は単行本も出ましたし引越しもしましたのでいろいろと変動のある年になりました。  
自分にとっても皆様方にとっても  
来年もさらに実入りの多い一年になりますようお願いしつつ  
この本を締めくりたいと思います。

それではまた。

奥付

2005年12月30日

2005年12月30日 黒陰眼

発行

燐乳フルネルソン

印刷

ユニプリント様

禁無断転載

Studio Cambria (bakunyu fullneron homepage)

<http://studio-cambria.sakura.ne.jp/>

mail to: [aap47400@hkg.odn.ne.jp](mailto:aap47400@hkg.odn.ne.jp)

hakunyu fullnerzon

禁無断転載